

国語の目の輝き ～研究テーマを共有する 2～

ハイライト：

- ・学年の指導事項に応じた言語活動を設定する。
- ・子どもの目の輝きは、「読む能力」を中心に評価します。
- ・植田先生の授業の「指導事項」と「目の輝き」
- ・豊原先生の授業の「指導事項」と「目の輝き」
- ・協議会で、授業づくりのポイントを共有しましょう。

学年の指導事項に応じた言語活動を

5月に行った提案授業では、4年生の算数の授業をもとに、算数科の学習における「子どもの目が輝く姿」について協議を行いました。全職員で「めざす子ども像」の捉え方を具体化していったことで、研究テーマを共有することにつながっていきました。

では、国語科の学習における「子どもの目が輝く姿」とは、どのような姿になるのでしょうか。

算数科では、1単位時間の学習過程における段階別に「子どもの目の輝く姿」を整理してきました。しかし、国語科は、問題解決学習である算数科とは、教科の特質が違います。1単位時間の目標に応じて、学習過程が異なる場合が多いのです。そこで、国語科では、「子どもの目の輝き」を、1単位時間にとどまらず、単元を通して捉えていきたいと思います。

ここで、「新しい学習評価」という視点から国語科の学習をふり返ってみましょう。

国語科の一単元では、一つの領域の指導を行い、その領域（「読むこと」等）に関わる評価規準を設定することが妥当であるとされています。また、評価規準を設定するにあたり、学年の指導事項に応じた言語活動を重点化していくことも必要です。

久原小学校の国語科の研究は、「読むこと」領域に焦点化して進めています。そこで、まず、学年の「読むこと」の指導事項をしっかりと把握することが大切です。そして、その指導事項に応じた言語活動を設定していくことになるのです。「聴き合い・語り合い活動」は、この言語活動の一つとし捉えていきましょう。

子どもの目の輝きは、「読む能力」を中心に評価します。

国語科の評価の観点は、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語について知識・理解・技能」という5つになります。

久原小学校では、「読むこと」領域で研究をすすめていますので、当然のことですが、評価の観点は、「読む能力」に重点化しています。「読むこと」領域の指導事項が身につけているかどうか評価していくことになります。

また、一つの単元の中には、「国語への関心・意欲・態度」及び「言語についての知識・理解・技能」の二つの観点を、必ず設定していきます。

ここで、混同してしまいがちなことがあります。それは、「子どもの目の輝く姿」を、「関心・意欲・態度」という観点から評価していくことです。確かに、国語の学習内容に高い関心・意欲・態度をもって取り組んでいる姿は、「子どもの目が輝く姿」として捉えやすいものです。しかし、「関心・意欲・態度」の高まりは、読む能力の評価規準が達成されたからこそ生み出されるものです。つまり、久原小学校の国語の学習でめざしている「目の輝き」は、単元に設定した言語活動（特に聴き合い・語り合い活動）の中で、指導事項を達成している姿と捉えていきたいと思います。

指導事項に応じた言語活動と評価規準が大切です。



植田先生の授業の「指導事項」と「目の輝き」

3・4年生の「読むこと」の指導事項は、次のようなものです。

- ア 内容や場面の様子がよくわかるように音読すること
- イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見の関係との関係を考え、文章を読むこと
- ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に創造して読むこと
- エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること

- オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方の違いがあることに気付くこと
- カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと

植田先生の授業では、指導事項をイとオに重点化しています。公開授業では、言語活動として2つの聴き合い・語り合い活動を設定し、事柄の取り上げ方や説明の仕方と伝わり方の違いの理解を深めようとしています。そこで、この授業でめざす「目の輝き」は、違いへの理解を深めている子どもたちの発言・つぶやき・様相（評価規準）を通して、具体化されていきます。

豊原先生の授業の「指導事項」と「目の輝き」

1・2年生の「読むこと」の指導事項は、次のようなものです。

- ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること
- イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと
- ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと
- エ 文章の大事な言葉や文を書き抜くこと
- オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと

- カ 楽しんだり知識を得たりするために、文や文章を選んで読むこと

豊原先生の授業では、指導事項をイとエに重点化しています。公開授業では、言語活動として2つの聴き合い・語り合い活動を設定し、綿毛が飛んでいく様子を事柄の順序に気を付けて読み取らせようとしています。そこで、この授業でめざす「目の輝き」は、事柄の順序に気を付けて読み取ることができている子どもたちの発言・つぶやき・様相（評価規準）を通して、具体化されていきます。

協議会で、授業づくりのポイントを共有しましょう。

| | |
|--------------------|-------------|
| 全体司会（井上）記録（田代） | 於：会議室 |
| 1 講師紹介（校長） | 15：10 |
| 2 協議 | 15：15～16：00 |
| ・グループ協議（KJ法） | |
| ・報告（低学年：案浦 中学年：井上） | |
| ・まとめ（井上） | |
| 3 指導助言（木庭先生） | 16：00～16：40 |
| 4 謝辞（教頭） | 16：40 |

講師の津屋崎小学校主幹教諭の木庭竜之助先生からご指導を受けます。協議会は、グループごとに、それぞれの部会の授業について、KJ法を用いて行います。指導・助言は、2つの部会合同で受けていきます。今回の協議会のねらいは、①国語科の授業づくりを共有していくこと②部会間の縦のつながりを強化していくこと（学年の系統性）③実践交流会、研究発表会における協議会を試行することです。課題を明らかにし共有していくことで、さらなる進化をめざしましょう。